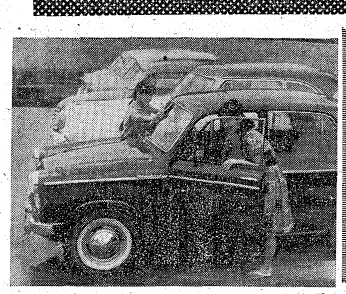
（3）　昭和35年8月25日（木曜日）　（新聞定価一カ月170円・一部6円）　上毛新聞

人気のドライブ・クラブ

一時間で五百円

県内に十ヵ所 利用者ふえる

金三万円ぐらいの国産車が出現、内心「車が買えるぞ」と思ってガレージをのぞき、「まず」と依存の感じにとらえる利用者で、機械的のドライブ・クラブはなかなか繁盛という。



現在臨時事務所に開店のあるドライブ・クラブは、前橋、渋川、沼田、高崎、桐生、伊勢崎、新町、水上の二十ヵ所。再開は、渋川・前橋に常駐車が各一台ずつあるが、あとは毎日トラックで、グッドマン、オースチンなどの小型自動車を、その数二十五台。だいたい一つのドライブ・クラブで三、四の乗用車が常備されているようだ。

乗用車は全部白色で、ちゃんと番号、自動車保険証明書とか名刺、「乗ってみてください」の文句を書いたパンフレットにかわって、お客さんが乗り込むまでは、あっという間の手間。というのが、ドライブ・クラブの一般的の特徴。

「乗ってみてください」は、利用者は家族のいい二、三歳までの青年、学生で、「車の運転技術がとてもうまくなった」と、運転をおぼえ、「車がお嫁さん」＝入待ち顔のドライブ・クラブ。

料金は、一時間五百円、二時間千円、三時間千五百円、一日（一二時間）千五百円、一二時間使えば一日分の料金。ガソリン代は別。

「一日」に使われるのが多くなったが、前日の夕方から翌朝まで、一時間